

令和元年度新宿区外部評価委員会第1部会 第10回会議概要

<開催日>

令和元年8月27日（火）

<場所>

第二分庁舎分館1階 会議室

<出席者>

外部評価委員（5名）

星卓志、板本由恵、齋藤朗、野澤秀雄、藤川裕子

事務局（3名）

金子行政管理課長、原田主任

<開会>

【部会長】

皆さん、おはようございます。

ただ今から、令和元年度第10回新宿区外部評価委員会第1部会を開催します。

前回に引き続き、個別施策Ⅲ-9「資源循環型社会の構築」について評価の取りまとめを行います。計画事業と経常事業の取りまとめは終わりましたので、本日は個別施策Ⅲ-9「資源循環型社会の構築」について施策全体の意見を取りまとめをします。

ではまず、「総合評価」についてです。

評価は「おおむね順調に進んでいる」で一致していますので、第1部会としては「おおむね順調に進んでいる」という評価とすることよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、意見についてです。

私は、多様な取組により、ごみ処理量の減少につながっていると評価しました。

【委員】

私も、ごみ発生抑制への様々な取組を評価したいと思います。

【委員】

新宿区の人口が増加している中で全体のごみの排出量は横ばいということですが、ごみ収集や資源ごみの回収作業など成果を上げており、全体的にはおおむね順調に進んでいると感じました。

【委員】

環境に負荷をかけないライフスタイルの確立やきれいなまちづくりということに向けて、区として日々努めているということを高く評価したいと思います。

【部会長】

「総合評価」の意見として、「おおむね順調に進んでいる」と評価した上でつけ加えるべき指摘は、何かありますか。

【委員】

資源ごみについては、もう少し効率的な回収方法があれば、更に回収率が上がるのではないかと思います。例えば、区には10か所の特別出張所がありますので、そのようなところにも回収ボックスのようなものを設置すればよいのではないかと思います。

【部会長】

前回は議論した内容ですね。

外で活動した際に発生した紙やびん、缶、ペットボトルなどのごみについて、現在は持ち帰って各自で分別して出すということを基本としていますが、それを施設で回収できるようにしたほうが良いという意見でしょうか。

【委員】

それだけでなく、近隣の方たちが買い物に行く途中などに資源ごみを持って行って、回収できるような場所ができれば良いのではないかと思います。

【部会長】

前回出たご意見は、例えば、地域センターなどを利用した際に出たごみを、その場で分別して回収できるようにした方が良いというものでしたよね。

【委員】

そうですね。

ただ、今のご意見のように、エコステーションのようなものを設置し、これまでの戸別回収に加えて、常時分別して回収できるような場所があれば良いのではないかと私も思います。

【部会長】

ごみの問題は全部がつながっているので、全体論として、第1部会においてどのような意見とするのかということを議論しておきたいと思います。

前回も述べた内容にはなりますが、区の負担は増えることにはなりますが、更に丁寧にきめ細かくどこでもごみを捨てられるように区が対応して区民の利便性を高めるための取組を進めるのか、区民一人ひとりにごみの分別や発生抑制ということについて意識を高めてもらい、個人の活動をごみを減らすという方向にシフトさせていくような取組を進めるのか、二つの方向性があると思います。これまで区として、ごみの減量に向けて非常に努力されてきたということをお前提とした上で、さらに指摘していくのであれば、どちらの方向性を強調したほうが良いのかということをお議論したいと思います。

【委員】

まず、区内に10か所ある特別出張所には、エコステーションのような場所を設置した方が良いのではないかと思います。そこで、地域住民や施設利用者の方に資源ごみを分別して出してもらい、区が回収するような仕組みとしてはどうでしょうか。そのことで、戸別回収の負担も少しは軽減されるのではないのでしょうか。

【部会長】

軽減できるのでしょうか。

【委員】

量にもよるかと思います

【部会長】

仮に特別出張所10所にエコステーションを設置しても、そこに捨てに行く人というのは、ほんの一握りですよね。大多数の人の利便性や行動は変わらないのではないかと思います、そんなに効果のあることなのではないでしょうか。

【委員】

想定する波及効果としては、やはり限定的だと思います。

【委員】

そうですね。

【委員】

神奈川県葉山町の事例になりますが、それまでのごみ集積所を廃止し、戸別収集にして、そのかわりに資源ステーションというものを設置しました。紙やびん、缶、ペットボトルなどの資源ごみを、常時、資源ステーションに置けるような取組を実施し、成功しています。

他自治体の事例ですので、新宿区とは人口規模も環境も違うのでそのまま成功するとは限りませんが、検討してみる意味はあるのではないかと思います。

【部会長】

前提として、資源化ということについて、その取組や資源化率がまだ十分ではないという認識なのかどうかという論点もあります。

【委員】

資源ごみの集団回収については、現在登録が約550団体ということでした。

【部会長】

集団回収については、区としても更に普及させたいという考えでした。集団回収のほうが戸別回収よりもずっと効率的ですし、取り組む側のモチベーションも高まりますし、区の支出も減るので、区としてはメリットばかりという形になります。

資源化率の向上ということに対して、更に努力していかなければいけないのであるとすれば、その取組をどのような手段によって進めていくべきかということです。つまり、資源化できるのに燃やしているもの、埋め立てに行っているものを資源ごみとして回収するために、更にきめ細かに資源ごみをいろいろなところで回収できるようにするなど、行政サービスを向上していくべきなのか、そうではなく、区民の一人ひとりのごみを減らすという意識をもっとつか

り持ってもらうほうに努力すべきなのかという論点について議論する必要があります。

【委員】

基本は後者だと思います。やはり、区民一人ひとりがモラルを持っていなければ、区がいくら努力しても変わらないのではないかと思います。

【委員】

でも、どちらの取組も大事だと思います。

【部会長】

分かりました。

普及啓発活動については、前回施設見学の話もありましたが、区民一人ひとりの意識に働き掛けるということは大事であるという考えで良いかと思えます。

もう一点についても考えたいと思います。前回から議論になっていますが、様々な公共施設でいつでも回収できるように、区として更にきめ細かく対応していくべきかどうかについてです。それは、もともと資源の分別をしているような人が利用すると思うので、分別についての意識が低い人は利用しないのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

例えば、紙を燃やすごみとして捨てている人が、区役所や特別出張所に専用の回収ボックスができたからといって、そこに出しに行くようになるでしょうか。

【委員】

行かないでしょうね。

【部会長】

もともと分別をしていない人が、回収できる場所ができたことで分別しようと思うのであれば、最初からきちんと分別して捨てていると思います。

意見として伺いたいのは、紙を燃やすごみとして捨てている人を、きちんと資源として分別するようにしていくためにはどうすれば良いかということです。その手段として、特別出張所に紙の回収ボックスを設置することが効果的なのか、徹底的に働き掛けたほうが効果的なのかということです。

【委員】

私は、徹底的に働き掛けたほうが効果的だと思います。

【部会長】

先程、両方大事であるという話がありましたが、回収のサービス水準を上げてよりきめ細かく対応していくことで、ごみの分別をしない人が分別するようになるかについてはどうでしょうか。

【委員】

エコステーションなどを設置する場所によって違うのではないかと思います。

資源ごみを回収できる場所がたくさんあったとしても、自分の生活の動線の中になければ、ごみを捨てるためにわざわざ行動を変えるということはないと思います。しかし、例えば、自分が日常的に利用する駅やスーパーなどにそのようなエコステーションがあれば、資源ごみ

の回収率が上がる可能性はあるのではないかと思います。

リサイクルや資源化のために人が行動を起こすということはなかなか難しいとは思いますが、普段の行動の一部の中に入ってくるのであれば、行動を起こす可能性は高いのではないのでしょうか。

【部会長】

私が以前住んでいた札幌市のスーパーでは、トレーや紙パックなど、分別して店先で回収しているところがあり、それを利用している人が多くいました。ですので、家である程度集めておいて、買い物に行く際に持っていくということはあり得ると思います。

スーパーに限らず、日常の行動のついでにリサイクルを行えるのであれば、行動を変えるための効果はあるのかもしれませんが。

【委員】

そうですね。

【部会長】

ごみの発生源である区民に対するごみ発生抑制の意識啓発の働き掛けは当然重要な取組です。

もう一つの意見として、自分の日常的な行動の中にエコステーションのような回収場所があれば、日常の行動のついでにリサイクルをしようという気持ちになるかもしれないということです。これは、現実的に可能なことなのでしょうか。

【委員】

スーパーでは、ペットボトルやトレー、紙パックなどの回収をしているところがあります。

【部会長】

つまり、民間企業等の協力を得た上で、日常生活の行動の中にあるような分かりやすい場所に、エコステーションなどを増やしていくことができれば、資源化ということがもう少し進むのではないかという意見でまとめられるかと思います。。

基本の認識が確認できましたので、議論を進めたいと思います。

では、「取組の方向性に対する意見」についてです。

私の意見ですが、先程から述べているとおり、一般家庭への直接的な意識啓発の一層の強化が必要であると考えます。

【委員】

もともとのごみの発生自体を減らすということも重要だと思うので、より一層の区民の意識の向上が図られると良いと思います。

【委員】

私も、ごみ発生抑制に向けた更なる周知啓発を図ってほしいと思います。区民自らエコやリサイクルということを自発的に学ぶことは難しいと思うので、区からそのような機会を積極的に作ってほしいと思います。

【部会長】

では、外部評価意見としては、「総合評価」は「おおむね順調に進んでいる」と評価した上

で今後も頑張ってくださいという内容として、「取組の方向性に対する意見」において、先程議論した、日常生活の行動の中で回収できるような場所をもう少し増やしたほうが良いのではないかということ、区民のごみ発生抑制の意識を高める努力してくださいということ、この2点の意見を付すということによろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ありがとうございます。

では最後に、「その他意見・感想」についてです。

私の意見ですが、家庭ごみ収集の有料化について指摘したいと思っています。23区は、特別区の制度ですので、導入に向けては大変困難であり、新宿区単独で実施するべき話ではないということは理解していますが、他区も含めて検討に向けた議論ぐらいは始めたかどうか、それを新宿区が主導していったらどうかということ意見を付したいと思います。

【委員】

世界的に問題となっている海洋プラスチックの問題についても積極的に取り組んでほしいと思います。民間企業等でも、プラスチックのストローを紙のストローに替えるなど具体的な取組を行っていますので、区としても具体的に何か取り組んでほしいと思います。

【委員】

高齢化に伴い、ごみ収集のコストというものはどうしても上がってくると思います。そうであれば、段階を踏んでいく必要はあると思いますが、将来的には家庭ごみ収集の有料化について検討していく必要が出てくるのではないかと思います。

【委員】

区においても、エコ素材を利用していくということを推進する取組を進めてほしいと思います。

【部会長】

まとめると、やはり、ごみとなるもの、ごみの発生自体を減らすという意見としてまとめることができるのではないかと思います。

その上で、具体的に何を意見として述べるかということなのですが、私は家庭ごみ収集の有料化について述べたいと考えています。いかがでしょうか。

【委員】

私は、家庭ごみ収集の有料化については反対です。もちろん、資源循環型社会をつくらなければいけないし、ごみは減らさなくてはいけないのですが、ごみを収集して、区民が快適で衛生的な生活を送ることができるようにするということが区の仕事だとすると、ごみを減らすために家庭ごみの収集を有料化にするということは、少し違うのではないかと感じます。

例えば、ごみ袋を有料化した場合に、これまできちんとごみを出していた人は、ごみ袋を買ってくれると思いますが、反対に、不法投棄が増えたり、ごみ袋を買わないで捨てるような人が増えたりするのではないかと思います。また、家庭ごみ収集の有料化に当たっては、その費

用の負担が区民にとって非常に大きくなってしまわないかと思えます。

【部会長】

札幌市では、平成21年に家庭ごみ収集の有料化を導入しました。もちろん、今のようなご意見やマイナスの影響が心配され大激論があったのですが、結果として、家庭ごみ収集の有料化の導入により、燃やせるごみが36%、燃やせないごみが74%減り、市には36億円の収入がありました。そのため、私の理解としては、もちろんいろいろな問題はあると思えますし、きちんと取り組まない人もいっぱいいるかもしれません。しかし、家庭ごみ収集の有料化を導入することによって、ごみを減らそうという区民のモチベーションの向上につながり、ごみ発生抑制ということに相当程度効果があるのではないかと考えます。

意見として、是非導入してくださいとするのか、効果を上げている事例もあるので検討してくださいとするのか、それは考える必要があると思えますが、家庭ごみ収集の有料化については何かしら意見として付したいと思えます。

【委員】

私の娘が住んでいる自治体は、家庭ごみ収集の有料化を導入しており、ごみ袋が有料となっています。有料化が導入された際に感じたことは、ごみ袋の購入費用が非常に高いということです。そのため、ごみを少しでも減量化して捨てる、分別するというのをそれまで以上に徹底して行い、ごみの量を3分の1まで減らしました。やはり、家庭ごみの収集を有料化することにより、ごみを減らそうという意識につながるのので、効果としては大きいのではないかと考えます。

【委員】

私は、家庭ごみ収集の有料化ということについては、半分賛成です。例えば、ごみ処理量を何%減らすという目標を設定し、その目標を達成したら無料に戻すなど、ごみ発生抑制についての意識啓発のため期間を区切って家庭ごみ収集の有料化を導入することも考えられるのではないのでしょうか。

【委員】

家庭ごみ収集の有料化の話ですが、一般家庭のごみ量自体は変わらないと思えます。その代り、燃えるごみ、燃えないごみとして捨てていたものをきちんと資源化するようになるのではないかと考えます。

【部会長】

札幌市の実績では、市民一人1日当たりのごみの量は、有料化を導入する前後で、平均723gから平均554gにまで減っています。資源化が増えるということとともに、もともとごみとなるようなものを買わないようにするというモチベーションにもつながるのだと思えます。

【委員】

家庭ごみ収集の有料化を導入する際には、その前の駆け込みでごみを出す人がすごく多く、有料化導入の前年のごみ処理量が非常に多くなると聞いたことがあります。

【部会長】

それはあるかもしれません。

【委員】

23区は無料ですが、近隣自治体の市部では有料化を導入しているところが多いですね。

【委員】

将来的には、家庭ごみ収集の有料化を導入していかなくてはならないと思いますが、一方で、高齢者などの低所得の人たちにとっては非常に負担になってしまうと思うので、その点についても十分に考慮してほしいと思います。

【委員】

私は、やはり、家庭ごみ収集の有料化ということありきの検討を進めるのではなく、エコステーションを増やすなど細かい取組を丁寧に行ってごみ処理量を減らしていくということなど、多様な面から検討を進めていってほしいと思います。

【部会長】

もちろん、いろいろな取組についてそれぞれで努力をして、ごみの発生抑制を進めていかなくてはならないと思います。先程議論したように、日常的な行動の中で資源化に取り組めるようにするというハード面の検討と、区民の意識に働き掛けるというソフト面の検討も必要ですし、引き続き、意識啓発していくということも重要です。その中の一つとして、家庭ごみ収集の有料化ということも検討していく必要があるのではないかという意見です。

【委員】

私は、家庭ごみ収集の有料化がごみ発生抑制に効果があるのかということについて、少し疑問です。

【部会長】

では、ごみ発生抑制に効果があるということを前提にしないで、家庭ごみ収集の有料化によりごみ発生抑制に効果を上げている自治体もあるので、その効果も含めて、選択肢の一つとして検討してはどうですかという意見ではどうでしょうか。

【委員】

そうですね。

【部会長】

では、「その他意見・感想」については、家庭ごみ収集の有料化と海洋プラスチックの問題について意見を付すという形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ありがとうございます。

では、個別施策Ⅲ-9「資源循環型社会の構築」の取りまとめは以上となります。

外部評価意見については、ただ今ご議論いただいた内容を踏まえて、部会としての評価、意見をまとめさせていただきます。記載内容については、部会長である私にご一任くださるようお願いいたします。

それでは、本日の部会は以上で閉会とします。
お疲れさまでした。

<閉会>